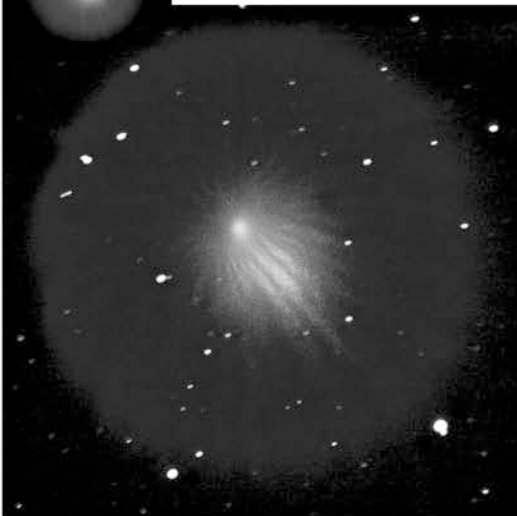




# 天文台だより

銀河の森天文台  
2008 冬号  
Vol. 38

## 突然増光したホームズ彗星(17P/Holmes)!



大型望遠鏡「りくり」で観測したホームズ彗星  
(上:10/25、下:10/31撮影)。1週間で約4倍、大きく見えるようになった!

2007年10月、ホームズ彗星(17P/Holmes)が突然大増光(アウトバースト)を起こし、肉眼彗星となり、話題になりました。

この彗星は、1892年11月にイギリスのエドウィン・ホームズによって発見されました。公転周期が約6.9年の短周期彗星です。2007年10月23日は、17等級の明るさで観測されていましたが、24日朝に8.4等、夜に3.5等、25日明け方に2.9等、夜半には2等前半まで明るくなりました。2日間で約14等(約40万倍)明るくなったこととなります。

観測を始めた25日から2週間ぐらいいはペルセウス座の中に肉眼でもはっきり見ることができました。左の写真のように、25日には小さな丸い形で彗星の構造はわかりにくかったのですが、日を追う毎に大きく見えるようになり、彗星の核から右下に向かう構造がわかるようになってきました。11月末になっても5等級ぐらいの明るさで見えていて、大きさは月の視直径よりも遙かに大きくなっています。これ程長い期間、観測できた彗星は大変珍しく、その広がり方も特異でした。ホームズ彗星の日々の大きさの比較や構造の変化をまとめた観測画像は、天文台HPに掲載していますので、是非ご覧下さい。(銀河の森天文台HP: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/>)

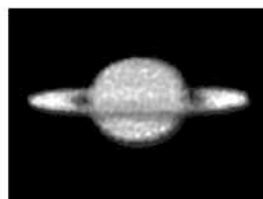
### 館長コラム 「ユリウス日」

日付は年月日で表しますが、天文学ではユリウス日を使うことがあります。これは西暦紀元前4713年1月1日(正確にはユリウス歴)から数えた日数で、天体暦に載っています。ちなみに2008年1月1日のユリウス日は24544667です。ユリウス日は天王星を発見したイギリスのハーシェルによって天文学に導入され、19世紀の末ごろから天体観測の整理や年代学の考証に広く使われるようになったようです。ある現象の間隔や周期を問題にすると、それぞれのユリウス日の引き算で間隔が計算されるのが便利だというわけです。このユリウスは古代ローマの政治家ユリウス・シーザーのことかと思いましたが、調べてみると直接の関係はないようです。10000日は27年ほどです。人の一生は何万回かの日常の繰り返しですから、長いようで短いですね。



(山下館長)

### 冬は土星が見頃です!



大型望遠鏡で土星を見ると、美しい輪がはっきりと確認できます。デジタルカメラやカメラ付き携帯でも簡単に土星を撮影できます。是非、ご来館下さい。

### ☆トピックス 「陸別から宇宙へ」



フィリップス氏

2007年10月3日~6日に来町され、タウンホールで講演会を行ったNASA宇宙飛行士ジョン・フィリップス氏が、2008年秋、スペースシャトルディスカバリー号に搭乗し、三度目の宇宙へ行くことが決まりました。

このニュースだけでもうれしい限りですが、驚くことにこの搭乗の打診があったのが、まさに陸別滞在中のことだったのです。宿泊中のホテルに「NASA!」から直接本人に電話があったそうです。前日まではもう宇宙に行く予定はないという話をしていたので、本人も全く予想していなかった出来事だったみたいです。勿論、フィリップスさんは公務で陸別に来ていたので、NASAから連絡があるのは不思議ではないのですが、宇宙への出張?の連絡でさえ、本当に突然決まるものなんだと驚きました。フィリップスさんは、宇宙飛行士になる前に一度来町されているので、三度目の来町実現も期待したいです。(村)

## 暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:54	16:02	22.4	---:--	11:06
1月 15日	6:52	16:17	6.6	10:00	23:53
2月 1日	6:39	16:39	23.6	2:01	10:50
2月 15日	6:22	16:58	8.0	10:12	1:36
3月 1日	5:58	17:17	23.0	1:49	10:10
3月 15日	5:34	17:34	7.4	10:04	1:46

# 天文行事&暦

## 1月

- 12/19-1/13 町民無料観望会
- 12/30-1/5 天文台休館日
- 4 しぶんぎ座流星群が極大 (PM3時 最大30個/時)
- 6 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 8 ●新月
- 21 大寒(24節気:太陽黄経300°)
- 22 水星が東方最大離角 (光度:-0.6等, 離角:18° 39')
- 22 ○満月

## 2月

- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 7 ●新月
- 9、10 プラネタリウム特別公開 「オーロラってなんだろう?」 「スターライトキャラバン」
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)
- 21 ○満月
- 25 土星が衝 (光度:+0.2等, 視直径:20" .0)

## 3月

- 3 水星が西方最大離角 (光度:+0.1等, 離角:27° 09')
- 5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 5-16 土星観望会
- 8 ●新月
- 19-30 町民無料観望会
- 20 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 22 ○満月

## 冬のイベント情報 !!

### ☆プラネタリウム特別公開

小中学校への出前授業で使用している4mエアドームでのプラネタリウムコンテンツを特別公開します。

#### 「オーロラってなんだろう?」

開催日時: 2月9日(土)

内容: オーロラの不思議を学習・体験します。

上映: 午後6時30分、7時30分の2回(1回40分)

定員: 各回20名(整理券配布)(入館料のみ)

#### 「スターライトキャラバン」

開催日時: 2月10日(日)

内容: この時季の星座や宇宙について学習・体験します。

上映: 午後6時30分、7時30分の2回(1回40分)

定員: 各回25名(整理券配布)(入館料のみ)

### 天文台日記 - 「寒いところで星を見る」 -

今年も寒さの厳しい季節となりました。しかし冬は夏に比べて空気が澄んでいるので、星はより明るくきれいに見え、星を見るには最適の季節とも言えます。暗い場所へ行けば冬の天の川や流れ星も見つけられるでしょう。でも長時間外にいるのは大変ですよ。そこで! ちょっと一工夫して寒さを楽しみながら星を見るというのはどうでしょう。

以前私が天文ボランティアをしていた頃、仲間たちと「星見鍋」をしたことがあります。その名の通り、「星を見ながら鍋を囲む」ものです。寒さはすっかり忘れて、その一時と星空は忘れられない思い出になりました。みなさんも温かい飲み物を用意するなど、自分なりの楽しみ方を探しながら星を眺めて見てはいかがですか? (榊)

### ☆土星観望会

この時期、土星が見頃を迎えます。大型望遠鏡で見る土星の輪は大変美しいものです。

開催日時: 3月5日(水)~16日(日)

説明会: 午後7時から(土曜・日曜のみ)

### ☆町民無料観望会

12月20日(水)~1月13日(日)及び3月19日(水)~3月30日(日)の期間、町民の皆さんへ天文台の無料開放を行います。(但し月曜・火曜、12/30~1/5は休館日です。)団体、サークル活動の一環としての来館も是非どうぞ。

### 「天文茶話」-地球の出-

先月、JAXA(宇宙航空研究開発機構)が打ち上げた月周回衛星「かぐや(SELENE)」から世界初となるハイビジョンカメラによる月面の映像が送られてきました。月には大気が全く無いため何百kmも先のクレーターまで鮮明に写り、まるでCGと見間違える程のリアルな映像でした。

中でも月の地平線からゆっくりと昇る青い地球の光景はとて神秘的で、生命の存在が感じられない灰色の月面に対し、生命あふれる青い地球の美しさがとても印象的でした。青い地球の姿をいつか自分の目でも見てみたいものですね。

ちなみに地球の出は月のまわりを回る衛星からしか見ることができない現象で、月の上に立つ人からは地球は常にほぼ同じ位置に見えます。(箕)

### 天文台からのお知らせ

☆ 12月30日(日)~1月5日(土)の期間は、天文台休館日となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: [ginga@rikubetsu.jp](mailto:ginga@rikubetsu.jp)